

ご縁の「縁」+楽しむという意味の英語「ENJOY」=「縁じょい」つながりながら楽しもうという取り組みです。

～認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展vol.6～

宮代で共に暮らし共に創る講演を 開催!!

縁じょい
交流会



令和6年9月28日(土)進修館大ホールにて、『宮代で共に暮らし共に創る講演会』を開催しました。当日は約250名の方が参加しました。

前半は三遊亭^{らくはる}楽春さんによる講演です。『笑いは健康の良薬』という演題で話して頂きました。三遊亭楽春さんは落語家という職業のほか心理カウンセラー、健康リズムカウンセラー、健康コンシェルジュといった資格と知識を活かし、講演会の講師として全国で活躍されています。当日も、小噺を挟みつつ、笑いが健康に与える効用について面白おかしく話して頂きました。会場も笑いに包まれ、当日参加した皆さんはまた1つ健康に繋がるヒントを得ることができました。

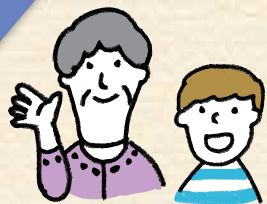
▲笑いの効果で認知症予防になることを話す三遊亭楽春氏

後半は、講演会のテーマに沿って、宮代で共に暮らしていくために必要な生活の支え合い活動、『ふれあい友の会』、『笑顔のチケット』並びに『認知症があっても暮らしやすい街を目指した取組』を紹介しました。三遊亭楽春さんが作った笑いの渦にまかせて、先立たれたおじいさんと1人暮らしのおばあさんという設定で、ユーモアたっぷりの寸劇を交えながら、丁寧にそれぞれの活動を紹介しました。

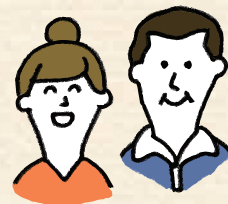
講演会終了後は、進修館2階ロビーにてさらに活動を知っていただく機会として、町内で助け合い活動に取り組んでいる団体と参加者との交流会を開催しました。現在、どの業界も人材不足ですが、特に厳しいのが社会生活を支える業界です。コロナ禍には、エッセンシャルワーカーとして、社会生活を支えていました。しかし、そのような団体は人材不足で、非常にピンチとなっています。『支えられる側ではなく、支える側でお手伝いしたい』と考えている皆さん、ぜひ、支える側の1人として、支える側の仲間に入ってみませんか。最後に、当日ご参加並びにご登壇頂いた皆さん、ありがとうございました!



▲助け合い活動に取り組んでいる団体からの発表の様子



地域支え合い講座 —シン・ご近所付き合いに向けて—



宮代町は、地域交流サロンや助け合い活動の担い手になっていた「**65歳～74歳**」の年齢層が、**2030年まで減り続けていきます**。(グラフ参照)地元だけではない、新しいつながり方が求められています。

そこで、8月17日(土)進修館小ホールにて、大学生を担い手に生活支援の活動や居場所づくりに取り組んでいる(株)御用聞き代表取締役社長の古市さんをお招きし、新しい多様なつながり方についてのコツを話していただきました。

会話の始まりは笑顔から!

まずは参加者同士での自己紹介

1. 名前
2. 趣味
3. 参加のきっかけ

会話で世の中を豊かに

- ・御用聞きの活動は、ちょっとした困りごとである「生活のささくれ」を取り除くこと
- ・活動のなかで相手との関わりで気づいたこと

助ける人と助けられる人との会話が何よりも大事
→会話から関係は築かれていく
次に、参加者同士で「暮らしの中でのささいな困りごと」について話し合いました。

みんながうれしい場所?

会話を通じて生まれる笑顔は、多様で自由なつながりの証であり、「みんながうれしい場所になっている」ことが、結果として、良い活動やつながりが芽生える土壌になっていることを教えていただきました。



▲ 2010年を100とした場合の2050年までの宮代町の人口推移グラフ



▲ 気づいたら、時間を忘れるくらい話が盛り上がりました。



▲ 高齢者のスマートフォンにアプリを登録するお手伝いをした経験(笑顔になってもらえてうれしかった!)を話してくれました。